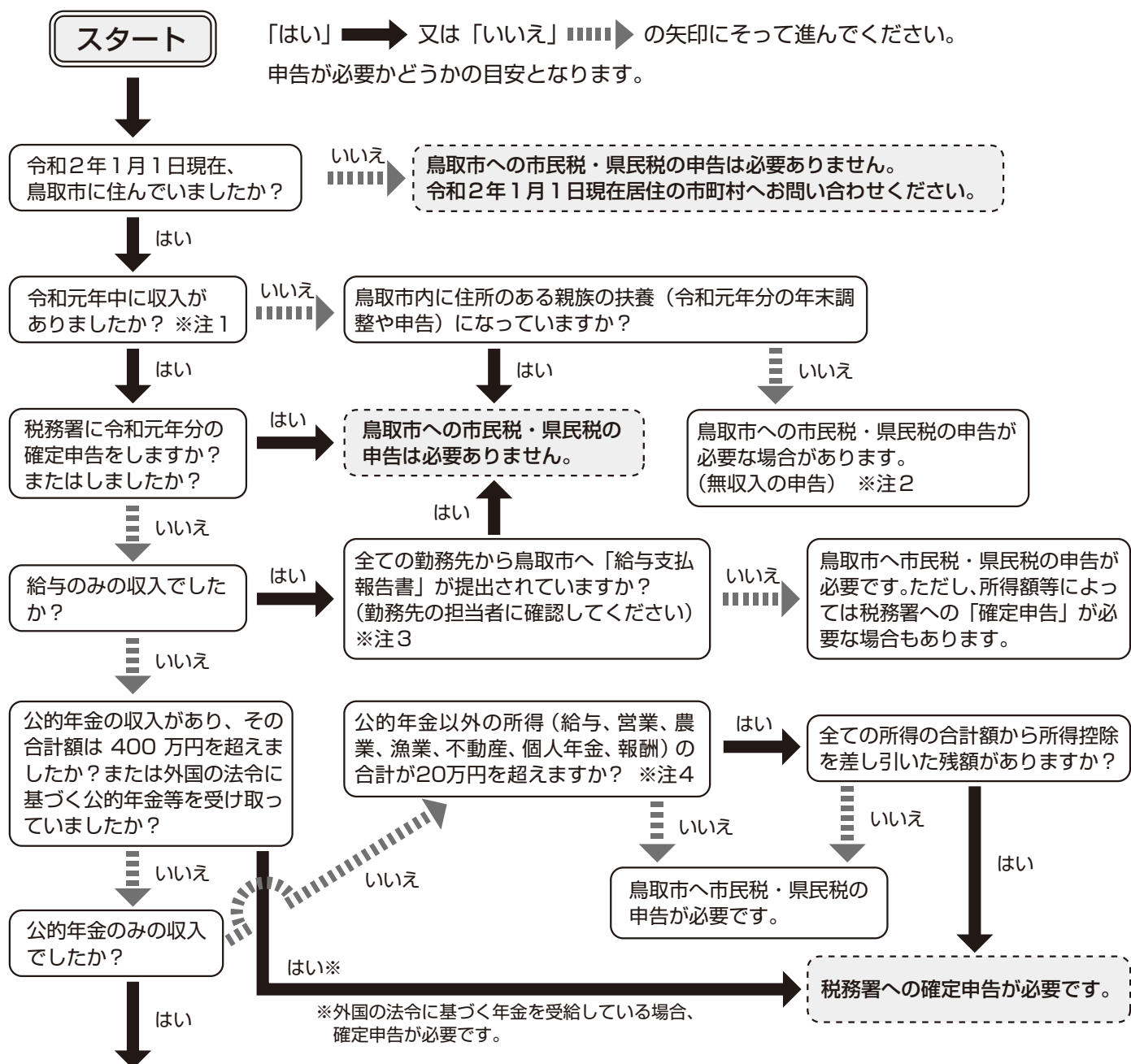


「市民税・県民税の申告をする必要があるのでしょうか？」

下記のフローチャートを参考としてください。

※このチェック表は一般的な例となっています。ご不明な点は市民税課までお問い合わせください。



日本年金機構等から鳥取市へ「年金支払報告書」が提出されますので、市民税・県民税の申告は必要ありません。

ただし、下記の①または②にあてはまる人で扶養控除や社会保険料控除等の控除申告をすると有利になる場合があります。

①昭和30年1月1日以前生まれ（65歳以上）で公的年金収入が151万5千円超の人。

②昭和30年1月2日以降生まれ（65歳未満）で公的年金収入が101万5千円超の人。

また、公的年金等の受給者の扶養親族等申告書に扶養親族として記載された方を他の方の扶養親族に変更する場合には、その方を扶養親族から除外する申告が必要です。

事業所得（農業など）のある人へ
事前に収入と経費をまとめた「収支内訳書」を作成してください。

医療費控除を申告される人へ
事前に医療を受けた人、病院・薬局ごとに医療費を集計してください。

注1：雇用保険、労災保険、障害年金及び遺族年金は課税対象の収入となりません。

注2：収入がなかった人の記載欄を記入し申告してください。申告をしない場合は諸手続（児童扶養手当、国保料軽減、所得証明発行ほか）に支障となる場合があります。

注3：勤務先で年末調整がされていない場合は、確定申告することにより所得税の還付がある場合があります。給与を2カ所以上から受けていて、年末調整をされなかった給与の収入額と各種の所得金額（給与所得、退職所得を除く）との合計額が20万円を超える人は確定申告が必要です。

注4：公的年金以外の所得が給与の場合、鳥取市への市民税・県民税の申告は必要ありません。ただし、所得金額等によっては税務署への確定申告が必要な場合があります。

令和2年度市民税・県民税申告の手引き 鳥取市

令和2年度市民税・県民税の申告時期になりました。この手引きをよくお読みになり、令和元年中の所得金額及び所得控除に関する事項について申告してください。

- ◎申告が必要な人（4ページのフローチャートを参考にしてください）
- 令和2年1月1日現在鳥取市内に住所があり、次に該当する人です。
- 令和元年中に営業等・農業・不動産・配当などの所得、個人年金などの雑所得のあった人
 - 給与所得者で次に該当する人
 - 給与の支払報告書が勤務先から市役所へ提出されていない人（日雇やパートで働いている人、令和元年中に退職した人など）
 - 給与・年金以外に、農業・家賃・地代などの所得のあった人（所得税では、給与以外の所得が20万円以下の人は、確定申告をする必要はありませんが、市民税・県民税については申告が必要です。）
 - 外国の法令に基づく年金を受給している人
 - 医療費控除や雑損控除を受けようとする人
 - 令和元年中に収入がなかった人で、国民健康保険、長寿医療（後期高齢者医療）制度に加入している人
- （注）申告を行わないと、国民健康保険料、長寿医療（後期高齢者医療）保険料の算定が正しくできない場合や、各種証明書が発行できない場合がありますのでご注意ください。
- ◎申告をする必要がない人
- 所得税の確定申告書を提出した人
 - 給与の支払報告書が支払者から市役所に提出されていて、その他の収入がない人
 - 公的年金等の支払報告書が支払者から市役所に提出されていて、その他の収入がない人
- 公的年金等の収入が400万円以下で他の所得金額が20万円以下の場合、所得税の確定申告は必要ありません。ただし、社会保険料控除、生命保険料控除、地震保険料控除、扶養控除、配偶者特別控除等を受けようとする場合は申告が必要です。また、公的年金等の受給者の扶養親族等申告書に扶養親族として記載された人を別の人の扶養親族に変更する場合には、その方を扶養親族から除外する申告が必要です。

◎税務署との合同申告

【申告会場】 鳥取市役所駅南庁舎 地下第4会議室（市民税・県民税の申告）
鳥取市役所駅南庁舎 地下第5会議室（所得税の確定申告）

【設置期間】 2月17日（月）から3月16日（月）まで

【相談時間】 午前9時から午後5時（受け付けは午後4時まで）

※土曜日、日曜日、祝日は除きます。ただし、2月24日（月・振替休日）と3月1日（日）は、申告書を受け付けます。また、郵送による申告も受け付けますが、「マイナンバーカード」又は「通知カード及び身分証明書」の写しを同封してください。（ファクシミリ・電子メールでの提出は受け付けておりません。）

◎各総合支所での申告
各総合支所でも申告相談、申告書を受け付けます。詳しくは総合支所だより2月号でご確認ください。

- ◎申告に必要なもの
- 印鑑
 - 「マイナンバーカード」または、「通知カード及び身分証明書（運転免許証、健康保険証など）」
 - 給与所得者や公的年金受給者は、源泉徴収票（本人交付用）または支払者の証明書
 - 営業、農業等の事業所得者は、収支内訳書（申告書裏面の所得計算書を使用することもできます）と計算のもととなった金額を証明するための帳簿類や領収書等
 - 社会保険料、生命保険料、地震保険料、医療費等の明細書、支払証明書または領収書等
※鳥取市に支払った社会保険料の証明書は、長寿社会課（介護保険料）や債権管理課（国民健康保険料）、保険年金課（後期高齢者医療保険料）で入手できます。
※医療費控除を申告する人は、事前に医療を受けた人、病院・薬局ごとに医療費を集計してください。
 - 配偶者特別控除を申告する人は、配偶者の所得（収入）のわかるもの
 - 障害者に該当する人は、身体障害者手帳や療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳。要介護認定を受けている人は障害者控除対象者認定書
 - 雑損控除を受ける人は、住宅や家財の損害などに関連する支出についての明細書、領収書
 - その他 必要経費の額や控除額を証明するもの

申告期限は3月16日（月）です。忘れずに申告してください。

申告書には、マイナンバーの記載が必要です。

問い合わせ先
鳥取市総務部税務局市民税課
〒680-8571 鳥取市幸町71番地
電話 (0857)30-8147 FAX (0857)20-3921
E-mail siminzei@city.tottori.lg.jp
URL https://www.city.tottori.lg.jp/

※駐車場の混雑が予想されるため、公共交通機関の利用をお願いします。

4、5 所得から差し引かれる金額		控除額
⑩ 雑損控除	あなたや生計を一にする配偶者、その他の親族が災害や盗難、横領などにより住宅や家財などに損害を受けた場合の控除です。	【別紙】 2ページ参照
⑪ 医療費控除	あなたや生計を一にする配偶者その他の親族のために支払った医療費が一定金額以上ある場合の控除です。 (この控除を受ける場合は、明細書または、領収書を添付してください。)	(医療費の合計-補てんされる金額) -10万円 (所得の合計額が200万円までの場合は所得金額の5%)
(支払った医療費の合計) 病院や医師に支払った診療費、治療費、入院費などの合計額です。 (補てんされる金額) 健康保険組合、共済組合などから補てんを受ける療養費、分擔費、高額療養費などの給付金、生命保険会社等から受ける入院給付金等や加害者から受ける補てん金額の合計です。		8万8千円が上限
セルフメディケーション(医療費控除の特例) 従来の医療費控除と併用はできません。選択する場合は「1」を記入してください。 (スイッチOTC医薬品の購入費用-補てんされる金額)-1万2千円=控除額		8万8千円が上限
⑫ 社会保険料控除	あなたや生計を一にする配偶者その他の親族が負担することになっている健康保険料、国民健康保険料、国民年金保険料があなたが支払ったり、あなたの給与から差し引かれたりした保険料がある場合の控除です。	支払額
⑬ 小規模企業共済等掛金控除	あなたが小規模企業共済法に規定された共済契約や地方公共団体が行う心身障害者扶養共済制度に係る契約の掛金を支払った場合の控除です。	
⑭ 生命保険料控除	新(旧)生命保険や介護医療保険、新(旧)個人年金保険について、あなたが支払った保険料(いわゆる契約者配当金を除く)がある場合の控除です。	【別紙】 2ページ参照
⑮ 地震保険料控除	損害保険契約等について、あなたが支払った地震等損害部分の保険料(いわゆる契約者配当金を除く)がある場合の控除です。	
⑯ 寡婦・寡夫控除	あなたが寡婦または寡夫である場合の控除です。	
寡婦	(1) 夫と死別・離婚した後再婚していない方や夫が生死不明などの方で、扶養親族や総所得金額等が38万円以下の生計を一にする子のある方。	26万円
	(2) (1)に該当する方で、扶養親族である子があり、合計所得金額が500万円以下の方。	30万円
	(3) 夫と死別した後再婚していない方や夫が生死不明などの方で、合計所得金額が500万円以下の方。	26万円
寡夫	妻と死別・離婚した後再婚していない方や妻が生死不明などの方で、合計所得金額が500万円以下であり、総所得金額等が38万円以下の生計を一にする子のある方。	26万円
⑰ 勤労学生控除	あなたが学生、生徒で給与所得等があり、かつ合計所得金額が65万円以下で、合計所得金額のうち給与所得等(本人勤労所得)以外の所得が10万円以下の場合の控除です。	26万円
⑱ 障害者控除	あなたや同一生計配偶者、扶養親族が障害者や特別障害者である場合の控除です。	
普通障害者	心神喪失の常況にある人、身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳、戦傷病者手帳等を有している人など。	26万円
特別障害者	障害者のうち重度の精神障害者、知的障害者と判定された人、身体障害者手帳1級または2級の人、精神障害者保健福祉手帳1級の人など。 ※右の()内は控除対象特別障害者が同居の場合です。	30万円 (53万円)
⑲ 配偶者控除	あなたの合計所得金額が1,000万円以下で生計を一にする配偶者(事業専従者は除く)の合計所得金額が38万円以下の場合の控除です。 ※右の()内は控除対象配偶者が70歳以上の人(S25.1.1以前に生まれた人)です。	11万円~ 33万円 (13万円~ 38万円)
⑳ 配偶者特別控除	あなたの合計所得金額が1,000万円以下で、生計を一にする配偶者の合計所得金額が38万円超123万円以下の場合の控除です。 ※配偶者控除と配偶者特別控除を同時に受けることはできません。	1万円~ 33万円
同一生計配偶者 (控除対象配偶者を除く。)	あなたの合計所得金額が1,000万円超で、生計を一にする配偶者(事業専従者は除く)の合計所得金額が38万円以下の場合は「1」を記入してください。	
㉑ 扶養控除	あなたと生計を一にする配偶者以外の親族(事業専従者は除く)で合計所得金額が38万円以下の場合の控除です。	
一般扶養	年齢が16歳以上19歳未満の人、もしくは23歳以上70歳未満の人(H13.1.2~H16.1.1、S25.1.2~H9.1.1に生まれた人)	33万円
特定扶養	年齢が19歳以上23歳未満の人(H9.1.2~H13.1.1に生まれた人)	45万円
老人扶養	年齢が70歳以上の人(S25.1.1以前に生まれた人)	38万円
同居老親等扶養	老人扶養親族のうち、あなたや配偶者の直系尊属で、あなたや配偶者のいずれかと同居している人	45万円
※16歳未満の扶養親族(H16.1.2以後に生まれた人)も記入してください。		

市県民税申告書の書きかた

令和2年度 市民税・県民税申告書

鳥取市長 様 年 月 日 提出

個人番号	フリガナ	氏名	代理申告者名	電話番号
1月1日現在の住所	鳥取市			
現住所				
生年月日	明治・大正・昭和・平成・令和	年 月 日		

2 所得に関する事項		収入金額	収入金額合計	適用条文
給与	支払者の名称	円	円	源泉所得税額
公的年金等	支払者の名称	円	円	※総合課税・一時所得については裏面で計算してください。
雑	支払者の名称	円	円	その他雑所得計
その他	種類	収入	必要経費	特別控除
分離		円	円	所得金額

4 所得から差し引かれる金額に関する事項		雑損金額	補てんされる金額	災害関連支出金額
⑩ 雑損控除	損害金額	円	円	円
⑪ 医療費控除	セルフメディケーション/国民健康保険料/介護保険料	円	円	円
⑫ 社会保険料控除	国民健康保険料/介護保険料/国民年金保険料/後期高齢者医療保険料	円	円	円
⑬ 生命保険料控除	新生命保険料/旧生命保険料/介護医療保険料/新個人年金保険料/旧個人年金保険料	円	円	円
⑭ 地震保険料控除	地震契約分の支払保険料合計額/旧長期契約分の支払保険料合計額	円	円	円
⑯ 寡婦・寡夫控除	寡婦/寡夫/勤労学生控除	円	円	円
⑰ 障害者控除	障害者の氏名/障害の程度/特別・他(級・認)	円	円	円

6 事業専従者に関する事項		個人番号	氏名	続柄	生年月日	同居/別居	専従者控除額
1						同居/別居	万円
2						同居/別居	万円
3						同居/別居	万円
4						同居/別居	万円
5						同居/別居	万円
6						同居/別居	万円
7						同居/別居	万円
8						同居/別居	万円
9						同居/別居	万円
10						同居/別居	万円
11						同居/別居	万円
12						同居/別居	万円
13						同居/別居	万円
14						同居/別居	万円
15						同居/別居	万円
16						同居/別居	万円
17						同居/別居	万円
18						同居/別居	万円
19						同居/別居	万円
20						同居/別居	万円
21						同居/別居	万円
22						同居/別居	万円
23						同居/別居	万円

7 寄附金に関する事項		個人番号	氏名	続柄	生年月日	同居/別居	寄附金額
1						同居/別居	円
2						同居/別居	円
3						同居/別居	円
4						同居/別居	円
5						同居/別居	円
6						同居/別居	円
7						同居/別居	円
8						同居/別居	円
9						同居/別居	円
10						同居/別居	円
11						同居/別居	円
12						同居/別居	円
13						同居/別居	円
14						同居/別居	円
15						同居/別居	円
16						同居/別居	円
17						同居/別居	円
18						同居/別居	円
19						同居/別居	円
20						同居/別居	円
21						同居/別居	円
22						同居/別居	円
23						同居/別居	円

8 給与所得及び公的年金等に係る所得以外の市民税・県民税の納税方法		個人番号	氏名	続柄	生年月日	同居/別居	所得金額
1						同居/別居	円
2						同居/別居	円
3						同居/別居	円
4						同居/別居	円
5						同居/別居	円
6						同居/別居	円
7						同居/別居	円
8						同居/別居	円
9						同居/別居	円
10						同居/別居	円
11						同居/別居	円
12						同居/別居	円
13						同居/別居	円
14						同居/別居	円
15						同居/別居	円
16						同居/別居	円
17						同居/別居	円
18						同居/別居	円
19						同居/別居	円
20						同居/別居	円
21						同居/別居	円
22						同居/別居	円
23						同居/別居	円

9 配当割額又は株式等譲渡所得割額の控除に関する事項		個人番号	氏名	続柄	生年月日	同居/別居	所得金額
1						同居/別居	円
2						同居/別居	円
3						同居/別居	円
4						同居/別居	円
5						同居/別居	円
6						同居/別居	円
7						同居/別居	円
8						同居/別居	円
9						同居/別居	円
10						同居/別居	円
11						同居/別居	円
12						同居/別居	円
13						同居/別居	円
14						同居/別居	円
15						同居/別居	円
16						同居/別居	円
17						同居/別居	円
18						同居/別居	円
19						同居/別居	円
20						同居/別居	円
21						同居/別居	円
22						同居/別居	円
23						同居/別居	円

10 株式等の配当・譲渡所得等の課税方法の選択(所得税と異なる場合)		個人番号	氏名	続柄	生年月日	同居/別居	所得金額
1						同居/別居	円
2						同居/別居	円
3						同居/別居	円
4						同居/別居	円
5						同居/別居	円
6						同居/別居	円
7						同居/別居	円
8						同居/別居	円
9						同居/別居	円
10						同居/別居	円
11						同居/別居	円
12						同居/別居	円
13						同居/別居	円
14						同居/別居	円
15						同居/別居	円
16						同居/別居	円
17						同居/別居	円
18						同居/別居	円
19						同居/別居	円
20						同居/別居	円
21						同居/別居	円
22						同居/別居	円
23						同居/別居	円

住所欄等
令和2年1月1日現在の住所及び現住所・氏名・生年月日・電話番号を記入してください。代理人が申告される場合は、代理人の氏名も記入してください。

委任状			
申告書	代理人(申告書に代わって手続きをする人)	施設等記録簿(施設等の記録簿の番号は記載してください)	
住所	住所	所在地	
氏名	氏名	名称	
生年月日	生年月日	期	期

【委任状について】
代理人が申告する場合は裏面下部の委任状欄に記載をお願いします。

収入がなかった人の記載欄
収入のなかった人は、あてはまる項目に☑をしてください。その他の理由による場合は、できるだけ具体的に記入してください。

1 収入金額等
収入金額 令和元年中に収入することが確定した金額です。売掛金、現物収入、自家消費した商品、雑収入、未収家賃なども含まれます。
必要経費 令和元年中に収入を得るために要した費用(商品原価、雇人費、事業用固定資産等の地代・家賃、修繕費、減価償却費など)です。家内労働者や外交員、集金人その他特定の者に対して継続的に役務の提供を行っている人は、上記必要経費の合計額が65万円以下であっても、特例として65万円の必要経費が認められる場合があります。(詳しくは、市民税課にお問い合わせください。)

2、3 所得金額
営業等所得 小売業、卸売業、製造業、飲食業、サービス業、漁業、養殖業、大工、左官、外交員、集金人、日雇、内職などの所得です。(収入金額-必要経費)
農業所得 農作物の生産、果樹の栽培、家畜の飼育などによる所得です。(収入金額-必要経費)
不動産所得 アパート、貸家、貸室、貸事務所、駐車場、貸地などの所得です。(収入金額-必要経費)
利子所得 公社債及び預貯金の利子で源泉分離課税を選択しなかった利子所得です。
配当所得 株式の配当、出資金の配当、余剰金の分配などの所得です。住民税が源泉徴収されている配当所得を申告する場合は、配当割額控除額(源泉徴収済の住民税額)を「9」に記入してください。
給与所得 給与、賞与、賃金、専従者給与などの所得です。(収入金額は支払者ごとに記入し、その合計を収入金額合計欄に記入します。)給与を支払者の発行する源泉徴収票又は支払証明書添付又は持参してください。日雇賃金等で源泉徴収がないときは、申告書裏面の「日給所得等の月別収入状況」欄に収入金額を記入してください。※給与所得の金額の計算は【別紙】1ページの「給与所得控除額の金額の計算方法」を参照してください。
雑所得 恩給、公的年金、生命保険年金(個人年金等)、郵便年金(互助年金等)、原稿料、講演料、印税、非営業貸付金、太陽光発電等による売電などの所得です。公的年金等は支払者ごとに記入してその合計額を欄に記入してください。その他の雑所得は支払者、収入金額、必要経費を記入してください。公的年金等の雑所得とその他の雑所得の合計額を欄に記入します。※公的年金等に係る雑所得の算出は、【別紙】1ページの「公的年金等に係る雑所得の金額の計算方法」を参照してください。
一時所得 賞金、懸賞当選金、生命保険の満期返戻金などの所得です。裏面にて計算して、表面のサ欄、⑧欄に記入してください。
※総合譲渡、分離譲渡、山林所得等については、市民税課又は税務署へお問い合わせください。

6 事業専従者に関する事項
あなたと生計を一にする配偶者や15歳以上の親族で、あなたの仕事に従事した期間が1年のうち6カ月以上を超える人の給与を収入金額から控除することができます。ただし、事業専従者とした者は、配偶者控除、配偶者特別控除、扶養控除の対象となりません。
白色専従者の控除額は、次のいずれか低い金額です。
1. 配偶者は86万円、配偶者以外の親族は50万円
2. その事業に係る所得(事業所得、不動産所得、山林所得)÷(専従者の数+1)

7 寄附金に関する事項
令和元年中に市県民税における寄附金税額控除の対象となる寄附をした場合、寄附金税額控除を申告することができます。所定欄に寄附先の名称及び寄附金額を記入してください。
【ふるさと納税ワンストップ特例を申請された方へ】
寄附先の自治体へワンストップ特例申請書を提出された方が申告をした場合、または6団体以上の自治体への寄附をされた場合は、特例を受けられません。このような方が寄附金税額控除を受ける場合には、申告書に記入し、寄附金証明書等を添付または提示する必要があります。